

## 近畿圏の発展と 国際競争力の強化に向けて



国土交通省近畿地方整備局長 布村 明彦

近畿圏における最近の経済状況は、各種経済指標にも明るい兆しが現れてきており、実質 GDP も回復傾向を持続していますが、他地域と比較するとやっと回復した程度です。また、中枢機能を表す対全国シェアでも、各指標で徐々に低下してきており、まだまだ足腰はしっかりしていない状況と云えましょう。

近年における経済のグローバル化の急速な進展により、国際間の人流、物流が飛躍的に拡大するなか、近畿圏の国際空港、国際港湾が、国際公共インフラとしての役割を十分に果たす事が、近畿圏の経済回復を確実なものとするため極めて重要な事だと考えております。

昨今、大阪湾臨海部における大規模工場の新規立地など多くの企業進出が見られるなか、国際物流機能の強化と内陸部の物流拠点間を連結することがこれら国際企業の競争力強化に不可欠であり、陸・海・空のネットワークの一層の強化を図る事が重要であります。そのため、関西国際空港や国際港湾の活用向上を図る広域的な道路ネットワーク整備として、大阪湾岸道路西伸部、第二京阪道路、京奈和自動車道、新名神高速道路などの高規格幹線道路ネットワーク網の整備が急務であります。さらに、国際物流機能の向上を図る大阪湾諸港の機能強化として、阪神港におけるスーパー中枢港湾プロジェクトの整備に取り

組んでいます。

また、近畿は歴史的に東アジアとの交流が盛んであり、そのアジアとのさらなる連携を図るためには、アジアの人々を魅了し来訪者の増加や、国際企業を引きつける魅力ある近畿圏を創造することが必要です。そのため、大阪都心部では交通渋滞対策として大和川線、淀川左岸線など「都市再生環状道路」の整備、関西再生の起爆剤としての期待される「梅田北ヤード開発」、水辺を活かした魅力ある都市空間の創出を図る「水都大阪再生」などの取り組みが大阪の魅力向上に大きな効果が期待されます。また各地において、良好な景観を保全するため、「電線類の地中化」、「歴史的な町並みを保全する地域づくり」などの取り組みが長く、深い歴史・文化を持つ近畿圏の魅力を高めるものと考えています。

こういったなか、関西国際空港がアジアとの玄関口として、更に活用されるように関係者の皆さまと取り組んでまいりたいと考えておりますので、ご理解、ご協力をよろしくお願いいたします。